

第 37 回「渋沢栄一翁にちなんで」

日本における実業家の先駆者であり、2月からスタートするNHK大河ドラマの主人公、渋沢栄一翁の有名な言葉があります。

「武士道と実業道は、どこまでも一致しなければならない。また一致できるものである」

「私は自分で天の使命を受けている者であるという信念を抱いているから、どんな困難と闘ってもあえて苦痛と思わない。国家公共のために尽くすのがその使命だからだと信じているから、自分の利益を犠牲にすることがあっても不快に感じないのである。私の意思が誤解されたり徹底されなかったりで、かえって世間からひどい想像をされることもないではない。自分の誠心誠意、国家のためと信じて行ったことでも、事情が通じなかったり故意に曲解されたりで意外な非難を受けることもある。だがそれは、もとより介すべきものではない」

この言葉も、私の心に深く染み込んでいます。そして、ここで言う「国家」を「松崎町」に置き換えると、より身近に感じ勇気がみなぎってきます。緻密な計算と人への誠意を武器に、近代日本のあるべき姿を追い続けた渋沢栄一翁。私自身かくありたいと思います。

今年も「声なき声」に耳をすませ、それを誠心誠意、町政に活かし、町民満足度の高い町を目指していきます。